

## みやぎ生協

### ● 「仙台白菜」を復興のシンボルに

東日本大震災による津波の被害は沿岸部で、かつて経験したことのない甚大なものとなりました。農家の方も家や自家用車をはじめ農機具、田畑のすべてを無くした方がたくさんいらっしゃいます。

仮設住宅で何もせずに暮らしている方も多く立ち上がるきっかけが必要と考え、全農宮城県本部とみやぎ生協は「仙台白菜」を復活させることで復興につなげようとプロジェクトを立ち上げました。

戦前、宮城県は全国一の秋白

菜の産地でした。当時の伝統品種を復活させるとともに、生産者だけでなく高校生や食品メーカーも一緒になったプロジェクトです。8月に種を播き、9月に畑に植え、11月から収穫を開始しました。このプロジェクトは、みやぎ生協のメンバー（組合員）から、仙台白菜のおいしい食べ方を募ったり、料理教室にも参加していただき、『買って、食べて、伝えて』が復興につながるようにしています。

生産者も「皆から元気をもらった」と励ましに喜んでいます。



仙台白菜の収穫



販売の様子

(産直推進本部事務局長

沼沢美知雄)

### ● 仮設住宅入居者へ灯油 18 ㍓とポリ缶収納ボックスを無料提供

東北に住む私たちにとって「灯油」は欠くことのできないのちと暮らしを守る生活必需品です。「雨、風よけの風除室の設置」「断熱材追加」「窓の二重ガラス化」など寒さ対策が施されたとしても、被災地の仮設住宅では厳しい冬の暖房は灯油に頼らざるを得ません。しかも今年の灯油は、昨年より 18 ㍓

1 缶で 200 円以上も高く、1,600 円～1,700 円という異常値で、需要期を迎え、今後も高騰が続く様相です。震災で家を失い、仕事を失ったり減給されたり、わずかな年金で暮らす被災者に、寒さ対策で更に大きな負担が予想される中、冬の灯油代をどう安く抑えるかが東北で暮らす者の関心事です。

組合員に安定して灯油を供給し続けることが、暮らしを支える生協としての役割であると考え、特に応急仮設住宅にお住まいの生協灯油利用のメンバーに、「シーズン 1 回の灯油 18 ㍓」

と「ポリ缶収納ボックス」の無償提供を、サンネット 3 県（いわて、みやぎ、ふくしま）で、11 月 21 日（月）から開始しました。この取り組みは、日本生協連が全国の生協に呼びかけて被災者のくらし復興を支援する「つながろう CO・OP アクションくらし応援募金」に寄せられた募金 6,000 万円を活用します。

今回の支援策をより多くの応急仮設住宅にお住まいの皆さんへお知らせし、生協灯油の定期巡回配達の便利さを実感して頂けるように推進しています。

(共同購入運営部課長 菊地慎一郎)



ポリ缶に給油する配達員

## みやぎ県南医療生協

### ● 山元町での被災者支援活動について

11月5日（土）に、山元町町民グラウンド仮設住宅で、みやぎ県南医療生協の歌声サークルによる「うたごえ喫茶」を開催し、支援用のお米の全戸配布等も行いました。12月18日（日）にも、高瀬西石山原仮設住宅で、クリスマスイベントとして「うたごえ喫茶」を開催しました。

11月12日（土）には、山元町の全仮設住宅へ、近畿ブロック及び香川県の医療生協の仲間100人と、医療福祉生協カレンダーを配布しながら訪問活動、健康チェック、フリーマーケット（無料提供が終了のため）な

ど、それぞれの仮設毎に多彩な催しが行われ、被災者の方に大変喜ばれました。

1月25日（水）には、みやぎ生協仙南ボランティアセンターが継続して支援に入っている坂元中跡地仮設住宅において、健康チェックを行う予定です。

みやぎ生協や他のNPO団体との継続的な支援を行うため、「生協だより」でボランティアを募集したり、保健部員や組合員に多くの参加を呼びかけています。また医療福祉生協連との支援活動は、引き続き援助をいただきながら継続していきます。



11/12 高瀬西石山原仮設住宅(物資提供と炊き出し)



11/12 山元町坂元中跡地仮設住宅(健康体操)

(専務理事 梅津敏夫)

## 宮城県高齢者生協

### ● 石巻市渡波仮設住宅における支援活動

11月27日（日）石巻の渡波仮設住宅において、岩手、山形、埼玉の各高齢協、そして東京大田区のみなさんなど、総勢80人を超える参加者で支援活動を行

いました。

当日は、地域の味を生かした芋煮、鍋、力餅などを味わっていただきました。また歌や笑いで元気になっていただきたいと、

キーボードやハーモニカ演奏による合唱、腹話術、マジック、健康面への支援として歯科医師による口腔ケア、看護師による健康相談、座布団や青竹を

使った身体ケアや体操、更にミシン講習、ブリザードフラワー教室なども開催しました。それぞれのコーナーで多くの皆さんに参加していただきました。

被災者された方々の笑顔や元気な歌声に触れ、私たちにとってもありがたい一日をいただきました。今後も継続した活動を実施してゆきたいと思います。

(事務局長 千葉洋士)



心と体をリフレッシュ

みやぎ仙南農協

● 「第14回JAみやぎ仙南フェスティバル」  
～がんばろう 絆で築く みやぎ仙南～

JAみやぎ仙南では、農産物の収穫を多くの組合員・地域住民と分かち合い、地域農業の復興とふれあいを図ることを目的として、毎年10月から11月にかけての約1ヶ月間、7地区で「JAフェスティバル」を開催しています。

今年は震災復興に向け、「がんばろう 絆で築く みやぎ仙南」を統一テーマに、各会場趣向をこらした各種催しが用意され多くの来場者で賑わいました。

最終となった角田地区会場での気仙沼ホルモンをはじめ、閉上地区の水産業者等の津波被災

地業者を招き、利用することでの支援実施や、義援金箱設置、農産物共進会出品物販売代金の過半を震災復興義援金に向けるなどの取り組みのほか、恒例の地場産農産物即売を始め、農機具販売や、地元の小学校・中学校の習字や図画の作品展、またステージでは、JA女性部による大正琴やレクダンス、フラダンスなどのカルチャー教室発表会も開催され、各会場を大いに盛り上げていました。

(営農経済部部长  
三戸部文夫)



「児童生徒作品コンクール」入賞作品展示



気仙沼ホルモンコーナー

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

● “被災地を喰い物にするプロジェクト” 学習会

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センターでは、12月6日(火)仙台弁護士会館において、“被災地を喰い物にする



プロジェクト” 学習会を開催しました。

宮城県の震災復興計画は、単なる復旧ではなく「創造的復興」をめざすという考えのもと、これまで実行できなかった「構造改革」を、復興計画の名のもとに様々なプロジェクトを推し進めようとしています。具体的には、「リニアコライダー計画」「メディカルメガバンク構想」「カジノ特区」「水産特区」等

のプロジェクトです。

これらのプロジェクトは、一見、被災地のためという名目ですが、被災者・被災地の復旧は置き去りにしたまま、プロジェクトに巨額の復興資金を投入するので、今後十分注意が必要との話がありました。

(専務理事 野崎和夫)